

第5回

日時：2010.7.16 (金) 18:00 ~ 20:00

場所：川北合同研究棟 101 応接室 (1階入口入って左側)

プログラム

18:00~18:10

木島 明博 センター長「東北大学・安否確認システムについて」

高等教育開発推進センター長

18:10~18:50 (発表30分、質疑応答10分ほど)

芳賀 満 教授「造形言語を中心とした古代史教育の意義—対象を相対化する力と時間軸の回復の為に」

高等教育開発推進センター 全学教育推進部 人文社会科学教育室

【概要】

「学問の特長として対象を相対化する視座が指摘できよう。

ひとつの真理に縋るのではなく、いくつもの事実を客観的・批判的に統合し判断する力、即ち「相対化する力」の涵養が大学教育（特に教養課程）のひとつの目標ではないだろうか。

また造形芸術は、宇宙認識の視覚的表現であり、つまりその歴史は視覚的哲学史に他ならない。語学・文献(史学)も重要だが、造形芸術の哲学としての重要性とその教育上の重要性はもっと強調されるべきである。

さらに、河も歴史も、その上流・中流・下流のいずれもが同様に重要であることは言うまでもない。むしろ近現代史の方が、直接の因果関係を今日現在と持つ。

しかし古代は源流であるがゆえに根本的課題を蔵し同時に応用範囲が広く、ゆえに実用的な「住宅地図」ではなく世界観としての「世界地図」を教える教養課程では、極めて重要である。

以上を自分の専門とも絡めながら話したい」

Beer is ready!



高等教育開発推進センター FD + 納涼会

FD 研究会—研究と教育の関係を探る

納涼会スタート

18:50~19:30 (発表30分、質疑応答10分ほど)

羽田 貴史 教授「大学教員としてどう働くか—研究・教育・管理運営・家庭・地域社会—」

高等教育開発推進センター 全学教育開発部 高等教育開発室

【概要】

「大学教員の仕事は色々なものがありすぎる。

大学の中だけでなく、専門家として頼まれることも多いし、子育て・家族への責任も果たさねばならない。

長い教員生活を過ごすためには、大学や組織に頼らず自分で戦略を考え、自分の開発を行わねばならない。

退職まであと8年を残し、今までの31年を振りかえって楽しい老後を過ごす戦略を考えてみたい。」

納涼会

会費：500円 (ワンコイン)

※当日集金いたします。

納涼会の準備の都合上、7/13 までにご出欠の連絡を
 大学教育支援センター事務室稲田までお願いします。
 E-mail: inada@he.tohoku.ac.jp
 Tel: 022-795-4471



東北大学高等教育開発推進センター

Center for the Advancement of Higher Education, Tohoku University